



平和の尊さについて考えよう

10月1日（火）の5校時に、6年生を対象に平和学習会を行いました。この学習会は、松山市の「平和の語り部派遣事業」の一環として行われています。戦後80年を迎えようとしていますので、戦争体験者のお話を直接聞く機会は、大変貴重になっています。子どもたちは、戦争中に実際に起きていたことを真剣に聞くことができました。生活者の視点から見た戦争中に起きた現実を、子どもたちなりに受け止めていました。

社会科でも戦争の道に進んでいく日本の様子や戦時中の暮らしなどについて学習をします。

修学旅行では、広島平和記念資料館を見学します。戦争について学習することで、平和の尊さを考えることができるのではないかと思います。

ミサイルが飛んできたり、都市が破壊されて行き場をなくした人々が泣いたりする海外の映像を見るたびに、やりきれない思いがします。私たちにもできることを考える上でも、今回の平和学習会は大事なものとなりました。



友達と意見が違った場合には…

10月3日（木）の3校時、5年2組で道徳科の研究授業が行われました。教材は「ブランコ乗りとピエロ」です。サーカス団のリーダーであるピエロと若手でエース格のブランコ乗りとの関係を基にして、互いを理解し合うことの大切さについて学ぶものです。詳しい話はインターネットで検索することができますので興味のある方はご覧ください。

この学習を始める前に、子どもたちにアンケートを実施しています。「友達と意見が異なって言い争いになったことがあるか」という問いに対して「ある」と答えた割合は78.5%でした。ほとんどの子が、意見の相違とそれに伴う言い争いを経験しています。言い争いを経験しているからこそ、それを回避する必要性を感じているとも言えます。

「今後、意見が異なった場合にはどうすればよいか」ということを話し合いの中で考えました、すると「相手の意見を聞く」「お互いの意見を伝えあう」「相手の考えを認める」

というような意見が出ていました。不寛容な時代と言われてはいますが、この学習を通じて、子どもたちは相互理解を深めて、多様な意見を認めることの大切さを理解しました。もしかすると、冒頭の話の世界平和にもつながることかもしれません。

今回は初任者研修の一環として行われた研究授業です。子どもたちも初任者も一緒に成長しています。

